

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	システム工学
科目基礎情報					
科目番号	35103	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	「システム工学 定量的な意思決定法」 株式会社オーム社 井上 雅裕, 陳 新聞, 長谷川 浩志				
担当教員	谷口 幸和				
到達目標					
(ア) システムのライフサイクルおよび、テクニカルプロセスについて理解し、適切な手法が適用できる (イ) 階層化意思決定法の手法を理解し、適切な意思決定ができる (ウ) 線形計画法について数理モデルを最適化して解を導出できる (エ) システムの特性に関するデータを数理的に解析することができる (オ) システムの分析とモデル化、簡単なシミュレーションができる (カ) スケジューリング手法を理解し、数理的に見積もりができる (キ) 信頼性の指標を算出できる					
ループリック					
	最低限の到達レベルの目安(優)	最低限の到達レベルの目安(良)	最低限の到達レベルの目安(不可)		
評価項目 (ア)	システムのライフサイクルおよび、テクニカルプロセスについて理解し、適切な手法を適用することができる。	システムのライフサイクルおよび、テクニカルプロセスについて理解し、適切な手法を適用することが、おおよそできる。	システムのライフサイクルおよび、テクニカルプロセスについて理解し、適切な手法を適用することができない。		
評価項目 (イ)	システムの特性分析とシミュレーション、数理モデルについて導くことができる。	システムの特性分析とシミュレーション、数理モデルについて導くことがほぼできる。	システムの特性分析とシミュレーション、数理モデルについて導くことができない。		
評価項目 (ウ)	スケジューリング手法、信頼性指標の計測について理解・説明ができる。	スケジューリング手法、信頼性指標の計測について理解・説明がほぼできる。	スケジューリング手法、信頼性指標の計測について理解・説明ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A4, JABEE d, 本校教育目標 ②					
教育方法等					
概要	システムとは、多数の構成要素が有機的な秩序を持ち、同一目的に向かって行動するもの (JIS Z 8121) である。現代社会は複数の技術が融合したシステムが生み出され、社会生活を支えている。本講義ではまず、システムのライフサイクルおよび、テクニカルプロセスとシステム工学の手法について学習する。次に、階層化意思決定、最適化、統計解析、システム計画の手法について、数理モデルへ定式化し、解を求める方法を習得する。最後に、システムの信頼性について指標の求め方、向上の手法について学習する。				
授業の進め方と授業内容・方法					
注意点	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に授業内容の予習・復習を実施すること。 授業内容について、決められた期日までの課題 (レポート) 提出を求める場合がある。 				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	シラバスによる授業内容の説明およびシステム工学概説。	システム工学とその周辺科学などについて説明できる。		
	2週	システムのライフサイクルおよびテクニカルプロセス	システムのライフサイクルとテクニカルプロセスについて説明できる		
	3週	階層化意思決定法 (1)	階層化意思決定法について説明できる		
	4週	階層化意思決定法 (2)	階層化意思決定法の数理的手法により、適切な意思決定ができる		
	5週	線形計画法	線形計画法について数理モデルへ定式化して解を導出できる		
	6週	動的計画法	動的計画法について数理モデルへ定式化して解を導出できる		
	7週	確率・統計解析 (1)	確率計算を用いてデータの特徴を数理的に表現できる		
	8週	確率・統計解析 (2)	統計解析の手法を用いてデータの特徴を数理的に表現できる		
	9週	モデリングとシミュレーション (1)	モデリングの概念、手法について説明できる		
	10週	モデリングとシミュレーション (2)	確率モデルを用いた簡単なシミュレーションができる		
	11週	スケジューリング法 (1)	スケジューリング手法について説明できる		
	12週	スケジューリング法 (2)	スケジューリング手法について数理的に見積もりができる		
	13週	信頼性 (1)	信頼性の指標を算出することができる		
	14週	信頼性 (2)	信頼性を向上する手法について説明できる		
	15週	信頼性 (3)	システムのリスクコントロールについて説明できる		
	16週				
評価割合					
	中間試験	定期試験	課題	合計	
総合評価割合	30	50	20	100	
専門的能力	30	50	20	100	